

シベリア抑留関連証言映像上映会

平和祈念展示資料館が九段生涯学習館で開催する特別展示との連携企画として、シベリア抑留を体験した戦傷病者の証言映像を上映します。

上映場所:しょうけい館2階 シアター

上映期間:2024年2月7日(水)~2月13日(火)

上映時間:10:00~17:00

上映休止:2月10日(土) 13:00~13:40(連携講話会開催のため)

2月11日(日) 13:00~14:00(定期講話会開催のため)

何としても生きて帰る~極寒と酷暑の地で~

毎時00分
より上映

上映時間:約19分

満州で幹部候補生教育を受けていたがソ連軍の侵攻を受け、満州で終戦を迎える。ソ連軍に抑留されシベリアの収容所では鉄道建設工事に従事。昭和21年6月に中央アジアのタシケントに送られ、農場の開墾作業等にたずさわっていたが、昭和23年7月、作業中にマラリアを発症。入院し同年秋に帰国。戦後、マラリアの再発で高熱性中耳炎を発症し手術を行うが、右耳失聴と味覚障害の後遺症が残り、現在に至る。長い抑留生活の苦勞、帰国後のマラリアの後遺症の苦勞などを語る。

人生を切り開いた知恵 ~シベリアで片腕を失う~

毎時19分
より上映

上映時間:約20分

造船所で働いた後、陸軍に入営。満州で終戦を迎え、シベリア抑留される。パクタールの収容所では貯蔵庫から食糧を失敬し、飢えをしのぐ。カラカダの炭坑ではベルトコンベアに巻き込まれ、右腕を失う。帰国後は戦後復興で活発だった炭坑の坑木を売る。今も肩の付け根は痛む。90歳を迎え、目標は「ギネスに載るくらいまで生きていたい」。

全てはシベリアから始まった

毎時38分
より上映

上映時間:約16分

昭和13年、第一次満蒙青少年義勇軍に入隊。昭和19年満州で徴兵。擲弾兵として訓練を受けた。昭和20年8月17日、依蘭でソ連兵と衝突。爆弾破片で左手親指の先を潰す。そのままシベリア抑留中は建築業務に従事。収容所にて製材中、左親指を切断。昭和24年舞鶴へ。シベリア帰りというだけで帰郷後2年ほど警察に尾行される。大工仕事に就くも生活が厳しかった。昭和34年2級建築士の免許を取得。不自由な親指を駆使して建てた家は100軒を超す。

◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。◆団体プログラムにより変更となる場合もあります。